

研究の
ススメ!

ヒグマの驚きの食性。
カラスとの怪しい関係。
動物生態学は面白い!



Contents

【研究のススメ!】
ネガティブな経験を
「自分の力」に変える心理学

【HELLO!SENPAI】
人に寄り添う
「やさしい医療」を追い求めて

【カケル大学】
大学生が観光ビジネスに挑戦!

【この授業推してます!】
「社会問題・環境問題を構造化する」
ーシリアスゲーム制作ー

Kochi University TOPICS



高知大学
Kochi University

TAKE FREE

2026年8月10日(月)・11(火・祝)

高知大学朝倉キャンパスが 「よさこい祭り」の演舞場に!

高知の夏の風物詩「よさこい祭り」において、今年も高知大学朝倉キャンパスに演舞場を開設いたします。ヤシの木が並ぶ全長 110m のメインストリートを舞台に、高知大学でしか味わえない特別な時間をお届けします。地域とつながり、笑顔を巻き起こす。大学舞台の演舞場はここだけ!皆様のお越しを、心よりお待ちしております。



高知大学生がデザインし、教育学部附属特別支援学校の生徒が木工制作するオリジナルメダル。

数量限定オリジナルうちわ配布

高知出身の人気絵本作家・柴田ケイコさんがイラストを手がけた、当演舞場限定の特別なうちわです。



パラソル席を設置

踊り子の熱気と迫力を、すぐ近くで快適に味わえるパラソル席をご用意しています。



模擬店も多数出店

キャンパスならではの活気ある模擬店が、お祭りをさらに盛り上げます。



イベント情報

■黒潮祭 10月31日(土)・11月1日(日)

朝倉キャンパス (高知市曙町二丁目5番1号)

サークル・部活動等による出店やメインステージでのパフォーマンス、よさこい演舞場など、盛りだくさんのお祭りになります。どなたでも自由に会場いただけます。ぜひ足を運んでください!関連情報は黒潮祭実行委員会公式SNSにて随時発信していきます。



■南風祭 10月11日(日)・12日(月・祝)

岡豊キャンパス (南国市岡豊町小蓮)

南風祭は、医学部の学生主体の企画と運営によって創り上げられる学園祭です。前年度より本格的に再開された本祭では、各部活動による模擬店の出店や、文化部による日頃の成果を披露するステージパフォーマンス、有志学生による漫才や企画発表など、多彩な催しが二日間わたって展開されます。岡豊キャンパス全体が会場となり、普段の学修風景とは一味違った、活気と笑顔に満ちた空間が広がります。



■物部キャンパス一日公開
11月3日(火・祝) 9:00~15:00

物部キャンパス (南国市物部乙200)

当日は、物部キャンパスで行われている様々な研究活動を展示・実験・体験コーナー、施設見学等のイベントを通して、地域の皆様にご紹介します。キャンパス特産の野菜や花の販売など、楽しい催しも企画していますので、ご家族・ご友人をお誘いあわせの上、ぜひお気軽にご来場ください。



主な内容:教育研究活動の紹介(展示・実験・体験)、海洋コア国際研究所公開(世界三大研究施設の1つ)、農作物・花卉の展示即売会、外国人留学生お国料理・学生自慢料理出店ほか

高知大学みらい基金へのご支援をお願いします。

あなたの「共感」は、
私たちの「みらい」を変えられる。

高知大学みらい基金は、学生団体や研究者・研究プロジェクトごとに募金ページを設け、「どんな挑戦を応援したいか」を寄付者ご自身にお選びいただける基金です。それぞれの団体から活動の様子や成果をお届けすることで、「寄付してよかった」と実感していただけることを目指しています。高知大学の「みらい」をともに支える一歩として、あたたかいご支援をお願い申し上げます。



詳しくは
こちらから



高知大学広報・校友課 2026年7月発行

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

TEL: 088-844-8967

FAX: 088-844-8033
E-MAIL: kh13@kochi-u.ac.jp

広報誌SRU
バックナンバーはこちら



※誌面の学年と役職は制作時のものです。



ヒグマとセミの関係を調べるうちに、富田先生はあることに気づきました。「ヒグマが掘ったところは、まるで耕されたようになつて土が軟らかい。毎年同じ場所をよく掘るので、マツの生育に影響を与えているのではないかと調べてみました」

すると、掘られたところで、マツの根がちぎれているのを発見。土壌を分析したところ、水分と窒素が少ない。相当な悪影響がありそうだと、マツの年輪を分析すると、成長が遅くなっていることがわかりました。

また、人工林に設置した自動撮影カメラの映像から、カラスやキツネについても新しい発見がありました。ヒグマがセミの幼虫を食べている姿が映っているのは、まだ羽化する前の5月頃から羽化が終わる7月下旬までの長い期間。これに対して、カラスやキツネが食べている様子は、盛んに羽化する7月に集中して撮影されていました。「ヒグマの場合、



ヒグマの後を追うカラス

セミを探すヒグマの背後で
カラスは何をたくらんでいる？



カワウソもテーマにして、
今後は高知らしい研究を

富田先生は2022年、高知大学に着任。以降もヒグマを調べているほか、研究対象を広げています。1つは、シカとカラスの関係性を調べた研究。取り組むきっかけは、知床で撮影した画像や映像のなかに、カラスがシカに乗って、耳などをついついているものがあつたことでした。文献を調べると、寄生虫を食べているらしいとわかりました。

合かなり深く土を掘れます。これに対して、カラスやキツネはそんなに掘れない。そこで羽化するために地表近くまで上がってくる時期だけ、人工林を工サ場になっているようです」さらに、ヒグマが掘っているとき、その後ろにカラスが控えている様子も撮影されていました。これは、土が軟らかくなって、虫をついばみやすくなるからだと言います。富田先生は考えています。「トラクターで田んぼや畑を耕しているとき、よくサギやカラスが後ろをついてきますよね。あれは、地表に出てくる虫やミミズを食べるため。知床の人工林では、カラスにとってヒグマはトラクターなんです。うね」と富田先生は笑います。

「高知大学はフィールドが比較的近い。とても研究しやすく、いい体験ができる大学だと思っています」と話す富田先生。今注目しているのは、高知県出身の植物学者、牧野富太郎博士が発見・命名した寄生植物のヤッコソウに集まる生き物たちです。「いろんな鳥や動物が蜜を舐めに来るんですよ。でも、受粉を助けているわけではなさそう。それが不思議で、ちゃんと調べてみたい。カワウソもそうですが、せっかく高知にいるので、高知らしい研究をしてみたいですね」と抱負を明かしてくれました。

農林海洋科学部
農林資源科学科・フィールド科学コース 助教

富田 幹次

佐賀県出身。北海道大学理学部卒業、博士課程修了。博士(環境科学)。日本学術振興会特別研究員を経て、2022年、高知大学に着任。専門は動物生態学、哺乳類学、土壌生態学。「クマ研ではひたすら山を歩いていた。クマとの遭遇を避けるには、『ぼーいぼーい』『ぼーいぼーい』『わー!』などと、ときどき大声を出すのがコツです」



(左)インドネシアの調査地風景。
(下)田んぼの休憩小屋の周りで
マーキング行動をしているコツメ
カワウソ



「先輩の勧誘がしつこくて…」という、じつはあまり積極的ではない理由からクマ研に入った富田先生。しかし、ほどなく、生態を調査する面白さに魅了されます。大学院に進み、まず手がけたのはヒグマの意外な

ヒグマがマツの根元を掘って、
セミの幼虫を食べていた!?

農林海洋科学部で動物生態学を専門とする富田幹次助教は、学生時代、北海道大学の名物サークル「北大ヒグマ研究グループ(通称・クマ研)」に所属。ヒグマの痕跡を求めて、フィールドをめぐる日々を送りました。それからずつと、大型哺乳類などの知られざる生態を研究。これまで明らかにしてきた、動物の意外な生態をお聞きました。

ヒグマのフンも採集して分析。「フンをザルに乗せて水で洗い、食べたものの残りカスがわかる状態に。セミは丸のみにされるので、フンの中には消化されにくい殻がほぼそのままの形で残ります」。調べた結果、人工林で育つセミの幼虫を食べていることがわかりました。



地面を掘ってセミ幼虫を探すメスのヒグマ

なぜ、ヒグマはセミの幼虫を食べるようになったのか。富田先生は、知床の人工林が1970、80年代に植林されたことと関係していると考えています。2000年頃には樹が成長して、セミが大量に発生。それをヒグマが食べるようになったというストーリーです。加えて、もう1つの理由が――。

「ヒグマはフキやセリ科の植物が大好きなんです。しかし、近年、シカがものすごく増えて、これらを食べ尽くしてしまつた。このため、食べものが減つて、セミの幼虫を食べるようになったのでは」。全国的に問題になっている、シカの爆発的な増加。これがヒグマの食性にも影響を与えていると推察しています。

ヒグマの驚きの食性。 カラスとの怪しい関係。 動物生態学は面白い!



ヒグマのフンの中に残ったセミの幼虫の殻。動物が残したフンなどを調べる痕跡調査。



「苦しいけど楽しい」
研究手法を模索する道のり

心理学研究の魅力について渡邊先生は、「アイデアは色々浮かぶんですが、それをどう研究として形にするかを考えるのが」と先生は説明します。



心理学研究の魅力について渡邊先生は、「アイデアは色々浮かぶんですが、それをどう研究として形にするかを考えるのが」と先生は説明します。



アンケートに挿し込むイラストも工夫

「日常で誰かから他人の不幸話をされたことがあるか、どんなことを話されたかなどについて、匿名のアンケート調査を行いました。結果、まるでパンドラの箱を開けたような、人間の黒い側面が浮かび上がりましたこの工夫によって、これまで測定が難しかった感情がデータとして現れ、人間の心の奥にある複雑な感情が見えてきたといえます。」

ゼミは「興味を形にする場所」
高知大学で心理学を学ぶメリットは

渡邊先生は心理学の講義のほか、ゼミを担当して卒業論文の指導を行っています。「私の専門は発達心理学なのですが、学生はそれにこだわらず、興味があることを自由に研究テーマにしています。学生の「なんでだろう」とを大切にしたいんです」と笑顔を見せます。

過去には、ヒッチハイクをする人を乗せる運転手の共通点を知りたいと、ひたすらヒッチハイクを繰り返して、乗せてもらっている間にインタビューを行った学生や、若者の間でMBTIという性格診断がなぜ流行っているのかに興味を持って、卒業論文のテーマにした学生もいました。



卒論実験の準備場面



人文社会科学部
人文科学コース 准教授
わた なべ
渡邊 ひとみ
群馬県出身。同志社大学で博士号(心理学)を取得。同志社大学心理学部助教などを経て、2017年、高知大学に着任。「鳥を観察するのが大好きで、時間があるときにはよく野鳥を追いかけています。高知には、地元では見かけない鳥が多くいます。学内にも色々な鳥すよ。鳥マニア、という感じです」

高知大学の研究の
「今」をご紹介します。

vol.22

ネガティブな経験を
「自分の力」に変える
心理学

「ネガティブな経験にどんな意味を見出すと健康度が高まるのか」を
テーマに研究を続けています。心理学とはどんな学問なのか、
そして研究の魅力について話を聞きました。

「ネガティブな経験にどんな意味を見出すと健康度が高まるのか」を
テーマに研究を続けています。心理学とはどんな学問なのか、
そして研究の魅力について話を聞きました。

心理学は「心を科学する」
想像より広くて奥深い学問

「心理学とは」というと、心の問題を抱えた人をケアする学問だと思われがちですが、実際は多くの人に共通する特徴を科学的に見出す学問なんです」と渡邊先生。統計学的分析を基に、個人のレベルあるいは集団のレベルで、私たちがどう考えたり行動したりするかを、科学的に明らかにするのが学問としての心理学だそうです。

心理学には発達、感情、犯罪、交通、認知など30近い分野があり、扱うテーマがとても幅広いのが特徴です。「研究の対象はどの分野も「ヒト」なので、同じ対象をそれぞれ異なる視点から研究しています。また、多くの人に共通した特徴を見出す学問なので、何かひとつ発見したら、それを多くの人や場面に応用できるのが心理学の魅力の一つでしょう」と先生は言います。

「大学生の頃、『自分自身が抱えていたモヤモヤ』や『日常の中にある不思議に対して科学的アプローチによる解決が可能だと知り、魅力を感じました。だからこれまで手掛けた研究は、いつも自分から生まれたテーマです』と振り返ります。」

発達心理学とは?

人が生まれてから高齢期に至るまでの心や行動の変化を研究する心理学の分野です。認知、感情、社会性、人格などがどのように発達するかを明らかにし、その過程に影響を与える遺伝や環境の要因についても探究します。教育や子育て、福祉など幅広い分野に応用されています。

ネガティブな経験の中に
「どんな意味」を見つけるか

そんな渡邊先生が10年以上取り組んでいるのが、ネガティブな経験の「意味づけ」に関する研究です。

「はじめ、失敗、家族との別れ、友人関係のトラブル。誰にでもあるつらい経験は、その後の考え方や行動、そして心身の健康に影響を与えます。先生は全国の学生や大人を対象に、「今の自分に最も影響を及ぼしている経験」についてアンケート調査を実施してきました。集まったデータは何千件にも及びます。さらに、その経験が「どれほど自分の考え方に強く影響しているか」を客観的な数値でも測定し、心の中でその出来事がどのような位置を占めているのかを丁寧に分析しています。」

「つらい経験が自分の一部として取り込まれてしまうと、考え方や行動がその影響を受け、不健康につながることもあります。私も経験し、それが研究のきっかけになりました。でも、少し時間がたつてから『あの経験があったからこそ強くなった』といった、プラスの意味を見つげられると、その出来事の捉え方が変わるんです」と渡邊先生。



学生時代、家庭医道場に参加した時の様子(馬路村)

祖父の死をきっかけに
医師になろうと方向転換

「高知大学での学びは、めちゃくちゃ大きかった」と語るのは、三重県の人口1万人の紀宝町で、地域に1つしかない在宅診療所を開いている濱口政也さん。医学部で地域にどっぷり触れた経験から「やさしい医療」を推し進めています。なぜ、このように取り組んでいるのかじっくりお聞きしました。

高知大学に入る前は、広島県の大学で放射線技師の勉強をしていました。方向転換したきっかけは3年生の時に祖父が亡くなったことです。葬式のとで、家族や近所の参列者たちが「病院に言いたいことを言えなかった」「うちのときもそう」などと話していたのを聞いて、もっと患者のことを考えてくれたら、という思いが湧きました。同時に、それなら自分が医者になって、人にやさしい医療をしたいと思ったんです。

毎月来て地域に入って、本当に色々な活動をしました。あるとき、村のおんちゃんが「お前ら、ええ勉強してるな」と。座学で「これが地域医療」などと学ぶよりも、自分らがやっているのがほんまの地域医療の勉強ちゃうかなと思いました。住民と関わりながらやっていくのが大事やと、徐々に肌に染みていく感じで学ばせてもらいました。

こうした地域での経験から、医者もたくさんある仕事の1つと考えるようになりまして。色々な人が生きているなか、病気でつまずいた時にちょっとお手伝いをさせてもらうという感覚です。

大学卒業後、まず大阪の堺市の総合病院で研修医に。3年近く勤めたのち、父の死をきっかけに、出身地からほど近い三重県御浜町にある総合病院に移りました。

活躍する高知大学の先輩に
会いにいきました!

HELLO! SENPAI

Vol.11

医学部卒
くまのなる在宅診療所
医師
濱口 政也 さん

人に寄り添う 「やさしい医療」を 追い求めて

それから放射線技師の資格を取って卒業し、改めて受験勉強しました。すんなりとはいかず、2年かかりましたが、高知大学医学部に合格することができました。

村の住民と触れ合うなか 本物の地域医療を学ぶ

医学部で学ぶうちに、特に興味を持ったのが、家庭医療学講座の阿波谷敏英教授による「家庭医道場」。地域に足を運んで、医療を実際に見て、聞いて、考えるプログラムです。濱口さんは積極的に参加し、医師としてのあり方を学びました。

家庭医道場では大きな収穫がありました。よく訪れたのは、馬路村という小さな山村です。そこでは本当に様々な体験をしました。たとえば、村の診療所長が毎月、村民のメタボ解消のために開く「かつこよくなる男の道場」という料理作りの啓発事業。料理教室を

患者との関係性を大事に
「やさしい医療」を実践する

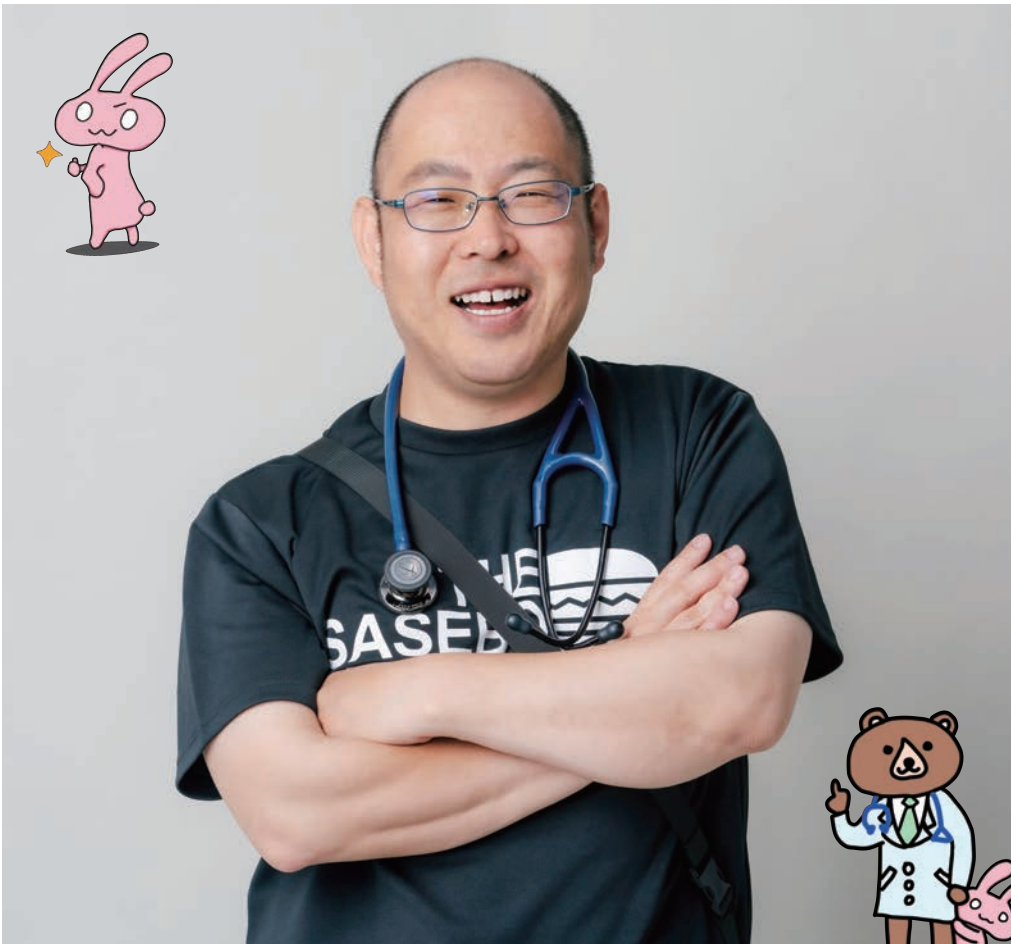
2020年7月、暮らしている新宮市の隣町である紀宝町に「熊野地域にある在宅診療所」を意味する「くまのなる在宅診療所」をオープン。病院よりも家で過ごしたい人や、がん患者の家を訪ねて診療し、ときには看取りも行っています。

基本的にあらかじめ予定して行く訪問診療が1日10件ほど、全部で90人余りの

研修医の3年目は専門を決める過程なんです。自分のやりたい医療って専門は関係ないと思うし、プログラムを中断して地元に戻りました。それから地域の病院で内科医として勤め、救急医療なども担当しました。

入院患者さんを診ていて気になったのが「家に帰りたい」といって、帰ることができないおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいたことです。そういう人たちを診ているうちに、帰る選択肢を作ることができないかと思うようになりました。そのためには、訪問診療をする医療機関が必要です。そこで、「在宅部門をつくりませんか」と病院に持ちかけて立ち上げました。地元に戻って、4年目のことでした。

最初は週1回、午後の1枠の時間のみでしたが、やっていくうちに在宅で診療を受ける患者さんが増えてきました。こうなったら、本格的に在宅医療に取り組みたいという思いが湧き、在宅の診療所をつくることにしました。



(上) 学生時代(吉野川の川下り)
(下) 訪問診療の様子

はま ぐち まさ や
濱口 政也 さん

和歌山県新宮市出身。広島県立保健福祉大学放射線学科卒業後、高知大学医学部に入学。大阪府の耳原総合病院、三重県の紀南病院を経て、2020年にくまのなる在宅診療所を開所。「学生時代の過ごし方すべてに、今やっている地域医療のエッセンスが詰まっていたんやと思います。やってるとは、あの頃と変わるんですよ」

くまのなる在宅診療所



HP



Instagram

くまのなる在宅診療所こだわりのHPに登場するキャラクター



患者さんを診ています。それ以外に「熱が出た」「呼吸が苦しい」など患者さんの体調が急変した時は往診をして対応しています。そのため、24時間、365日対応するのが基本。スマホはプライベート用のほかに、患者さんとの連絡用があって、そちらが鳴ったらすぐに行かなあかんという診療の仕方です。

大事にしているのは、昔から思っている「やさしい医療」。まず心がけているのが患者さんと話す時間を確保することです。患者さんと自分との関係性を築くことも重要です。症状のほかに、どっついう仕事をされてきたのか、何を大事に生きてきたのか、といった患者さんのバックグラウンド的なことをよく聞くようにしています。病状的にお変わりなくてもすぐには帰らないで、何気ない世間話をたくさんします。

「高知での学びは大きかった」と何度も口にする濱口さん。高知大学の学生や、受験を考える人に伝えたいことを聞きました。

ぼくは高知の小さな村などで色々な大人に出会い、応援してもらいました。高知には面白い大人が多いので、そういった人との出会い、つながりを大事にしてほしいですね。また、くまのなる在宅診療所にはときどき、全国から若い医学生が訪ねてきます。そんなときには「今のやさしいあなたでいてください」と伝えています。技術や知識はいつでも得られますが、失ってしまったマインドは取り戻せない。だから、今のあなたの心を大事にしてください。

こうして、ちよつとずつ関係性を積み重ねていくと、色々なことを相談してもらえようになります。人となりがわかっていくほうが、重大な局面が起こったとき、その人の本音を聞きやすいんですよ。ただ「やさしさ」って難しい。やさしい医療とはどういうものなのか、今も模索中です。

今後やってみたいこと、そうですね。患者さんはどうしても外へ出る機会が減ってしまう。だから、ツアーみたいなことをやりたい。みんなでお伊勢参りに行く、温泉旅行に行くみたいな感じで。薬を出すよりも、寿命が延びると思いますよ。



訪問診療の様子

JR四国× 高知大学

大学生が観光ビジネスに挑戦！ ツアー開発で地域活性化を目指す



いのっこ探検隊
地域協働学部 2年
上田 こまちゃん

四国の4国立大学とJR四国が連携して行う「地域観光チャレンジ」は、学生が自分の手で「本物の観光ツアー」をつくる地域振興プログラム。2025年度は、高知大学の学生が企画したツアーが銅賞を受賞しました！

——地域を歩き、考える 学生が見つけるツアーのテーマ

学生が地域の魅力を掘り起こし、観光ツアーとして形にする「地域観光チャレンジ」。2017年に高知大学、香川大学、徳島大学、愛媛大学とJR四国が締結した連携協定に基づいて実施されています。JR四国は「地域が自走できる観光の仕組みをつくりたい」と考え、大学側は「学生が地域資源を自分の目で見つけ、企画から実施までのプロセスを体験してほしい」と期待しています。

高知大学では、地域協働学部の石筒寛准教授のもとで集中講義という形で学生が参加し、プラン立案が行われてきました。石筒先生は「学生が観光資源を組み合わせ、パッケージ化して旅行商品として企画・販売する『ツアー』造成に関わる機会是全国的にも珍しく、観光業の現実を知る貴重な学びです」と話します。高知大学からは昨年、人文社会科学部で当時



ツアー当日



商店街の散策



土佐和紙を使ったこのぼり制作



プレゼンテーションの様子



地域の自然や文化
人々の暮らしに
焦点を当てた企画で
銅賞を受賞

行い、最終的に目的地をいの町に決定。タイトな日程の中、JR四国との打ち合わせや協力施設への交渉を重ね、7月の学内審査を経て、各大学8チームが集まる臨んだ最終審査会に臨みました。ストーリー性や地域協働性が評価され、2人のツアーは銅賞を受賞しました。

ツアーが現実の旅行商品に！

いのっこ探検隊が企画したツアーは、JR四国の旅行商品として販売され、2026年3月に実施されました。2人はツアー当日、参加者の案内役も担います。参加者は7名で、紙の博物館での紙漉き体験や、商店街の散策、土佐和紙を使ったこのぼり制作など、地域の文化に触れる時間が続きました。このツアーをきっかけに、後日、仁淀川を泳ぐこのぼりを見にくる、など参加者が継続的に地域と関わりを持てるよう2人が思考を凝らした行き先です。「案内役は初めてなので、事前にリハーサルを何回か行いました」と上田さん。森下さんは「ツアーを組むための視察の時などに、上田さんが町のことをいろいろ教えてくれたので、それをフル活用して参加者の質問に答えることができました」と振り返ります。ツアー終了後、参加者が書いたアンケートでは、「楽しかった」「大学生

を応援したいから、また参加したい」といった声が寄せられました。上田さんは「観光以外の方法でも地域に貢献したいという思いが強くなりました。今回の経験で、企業と学生の視点の違いを知ることができたのも大きな収穫です」と語り、森下さんは「地域貢献にどうアプローチするかなど、学部では学んでこなかったのが新鮮でした。特に、やりたいこととできることのギャップをどう埋めるかを学びました」と話します。



とても貴重な
体験でした！



いのっこ探検隊
人文社会科学部 2年
森下 奈々さん



JR四国
四国家連携部
いのっこ探検隊
ツアー担当
永本 守琉さん

本企画は、弊社にとって四国各地のまだ知られていない魅力や地域資源を発掘する機会となっているほか、地域にとっては観光資源のPRにつながり、学生の皆さんにとっては企画を通じて四国の魅力を深く知るきっかけになっていると感じております。また、地元事業者との調整やツアーでの案内などを通じて、学生の成長する姿が非常に印象的です。今後は、本企画の認知度を四国外にも広げ、より多くの方に四国を訪れていただくきっかけの一つとなることを目指してまいります。

Q 授業で制作する「シリアスゲーム」って何ですか？

A シリアスゲームとは、社会問題の理解や解決などを目的としたゲームのことです。現実の課題をゲームのルールや役割、勝敗条件に置き換えることで、複雑な問題の構造や、選択によって生じる影響を疑似的に体験できます。国連機関でも、気候政策を学ぶゲームや、防災・減災について考えるゲームが活用されており、ゲームは社会課題を学ぶ手段の一つとして広がっています。この授業では身体的なゲーム体験ができる点を重視してデジタルではなくアナログゲームを対象としています。



Q 授業を通して、何を学んでほしいですか？

A 共通教育科目として、全学部の学生が履修できます。2025年に始まった新しい授業で、今年が2回目。シリアスゲームの制作を通じて、自ら学び、他者と共同し、他者にわかりやすく説明できるようになることを目的としています。現実の社会問題や環境問題の構造は複雑です。何かを改善すると、別の何かが悪化するということもよくあります。そういった複雑な問題を、疑似的に体験できるシリアスゲームに表現する。その過程を通じて、具体的な現実と抽象的なゲームの世界を行き来し、思考できるようになってほしいと思っています。

Q 昨年の授業では、学生はどのようなゲームをつくりましたか？

A ①「琵琶GO!!」近江地方出身の学生のアイデアからはじまりました。琵琶湖の観光や環境問題について、すごろくをしながらクイズで知るゲームです。②「ジビえん」プレーヤーが消費者、ハンター、農家に分かれ、鳥獣被害対策やジビエの活用を進めます。全員で協力して点数を上げていきます。③「トコロランサー」過疎自治体の維持・振興がテーマ。政策を選び、人口・経済・環境・観光のバランスを取りながら高得点を目指します。④「繁栄の代償」南アジアに興味がある学生の発想から生まれました。人口過密国家での国家経営を考えます。⑤「防災！ニゲミチ大作戦」すごろく形式で、災害発生時の避難について考えます。防災に活かせる道具も学べます。⑥「デジタル☆ライフ」スマホ依存がテーマ。各マスでスマホを使うかどうかを選択し、使うと充実と依存の2種類のポイントがたまります。依存状態にならずにゴールできるかが勝利の鍵です。

1年目の授業では、ゲームを制作する過程で、実際にヒアリング調査を行った学生もいました。また「ジビえん」のように、伝えたいメッセージに合わせて協力型のゲーム形式を選ぶなど、ゲームの仕組みとテーマとの関係をよく考えた作品も見られました。一方で、「すごろく」形式を選択するチームが多かったため、2年目の授業では、シリアスゲームに限らず娯楽用のゲームを体験する機会を増やし、学生が様々なゲームメカニクスを意識できるように工夫しています。



ジビえん



デジタル☆ライフ

お話を聞いたのは…

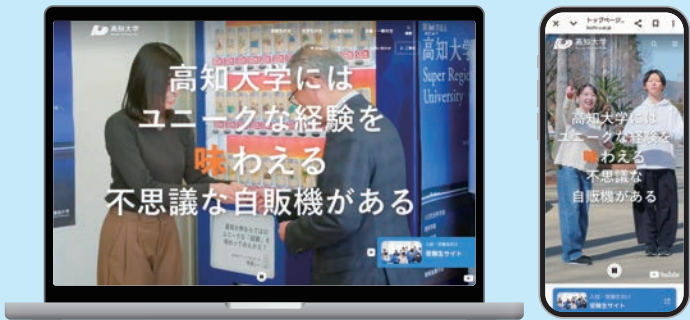
学び創造センター
学びの質保証ユニット 特任講師

寺田 悠希

東京大学教育学部卒、首都大学東京都市環境学部卒、東京大学大学院・放送大学大学院修士課程修了。東京大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学。修士（工学）修士（学術）。大学事務職員を経て2024年6月に高知大学に着任。専門は高等教育論。「社会・環境問題などに対する自分の思いを、ゲームで表現して一体化させる。シリアスゲーム制作は、真に大学らしい授業だと思います」



リニューアルした高知大学ホームページ



2026年春に、高知大学ホームページをリニューアルいたしました。
今回のリニューアルでは、デザインを一新するとともに、スマートフォンやタブレットからも快適にご利用いただけるよう、操作性の向上を図りました。
また、数字で見る高知大学の魅力などの新たなコンテンツのほか、受験生、在学生、卒業生、企業・一般の方など、利用の目的に合わせたメニューもご覧いただけます。
今後より分かりやすく、充実した情報発信に努めてまいります。

リニューアルしたHPはこちら



高知大学の魅力を伝える公式PV公開中！



きみが選ぶ味 篇はこちら



「きみが選ぶ味」篇

高知大学には、学長がおごってくれる不思議な自動販売機があるらしい。自販機にある、よりどりみどりの「味」。先輩たちが選んだ「味」は…？きみが選ぶ味が、きみを形づくる。きみは、どんな味を選ぶ？



答えは高知に 篇はこちら



「答えは高知に」篇

大きな青や、豊かな緑。そして、このまちや人たちの中で、私が、もっと私らしくなっていく。ここが、私のフィールドだ。



●動画で見る高知大学

「YouTube」・「夢ナビ」で学科紹介や講義動画を視聴できます。



●デジタルパンフレット

大学のパンフレットや各学部のパンフレットを閲覧できます。



高知大学のラジオコーナー

FM 高知 81.6MHz 【毎月】
「Monthly 高知大学」 第4金曜日10時15分～

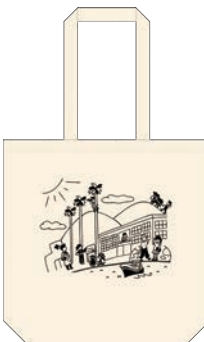
高知大学の教育・研究・地域貢献等の情報をFM高知でお届けしています。ラジオ聴取用アプリ「radiko」をダウンロードしていただくと、スマホやパソコンで全国どこでも視聴していただけます。

公式SNSで情報発信中！

イベントの情報やキャンパスライフなどをご紹介！学生広報スタッフによる投稿もあります。



「高知大学マガジンSRU」アンケートご協力をお願い



アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で3名の方に高知大学オリジナルグッズをプレゼントします。(当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます)

回答期限：令和8年10月31日

こちらをチェック



※画像はイメージです。

4月9日に人文社会科学部棟改修記念式典を開催しました

式典は、約3年にわたり進められてきた人文社会科学部棟の改修工事が無事に竣工したことを祝うとともに、新しくなった建物を広くお披露出することを目的として開催しました。

式典の冒頭では、緒方人文社会科学部部長の挨拶と受田学長の祝辞に続き、各コースの代表学生が学びへの思いを述べました。主催者ならびに学生の言葉を通じて、人文社会科学部がこれまで歩んできた伝統と歴史、今後の期待などが語られました。

その後は、高知県で盛んな「餅投げ」にちなんで「お菓子投げ」が行われ、集まった参加者で会場は大いに賑わいました。中には当たりくじ付きのお菓子もあり、当選者には景品が手渡されました。また、新しくなった人文社会科学部棟内を巡るスタンプラリーも開催され、すべてのスタンプを集めた参加者には、記念のクリアファイルと高知大学のロゴ入りシールが贈られました。さらに、教員によるクイズ企画も行われ、正解した参加者には正解者限定シールがわたされました。



新しくできた交流ラウンジの様子



お菓子投げの様子



スタンプラリーの様子



人文社会科学部部長挨拶

令和9年度 地域協働学部の改組予定について

本学は、令和9年4月から、地域協働学部に2学科目となるパブリックイノベーション学科（仮称）を設置し、公共サービス分野において公益的価値を創出することができる「地域協働公共人材」の養成を強化することを計画しています。令和8年3月13日に設置計画書を文部科学省に提出いたしました。「2027年度入学者選抜に関する要項」は受験生サイトでご覧いただけます。



人命救助にかかる日本赤十字社社長表彰について

令和7年9月27日（土）、地域協働学部実習授業にて大阪関西万博を訪問中、地域協働学部2年菅野匠真さん、池田章悟さん、大石晴斗さん、山下功祐さんの4名が会場内で倒れた来場者の救助に当たりました。救急隊が到着するまでの間、心臓マッサージ（胸骨圧迫）やAEDの操作、各所への連絡など初期対応を行いました。このことに関して、令和8年3月24日、日本赤十字社より表彰状が贈られました。



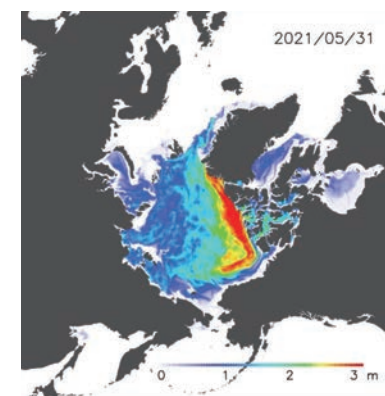
北極海の海水の厚さを衛星データから推定する新手法を開発

高知大学教育学部の木村詞明准教授と、東京大学大気海洋研究所の羽角博康教授は、人工衛星観測データを用いて北極海の海水の厚さを推定する新しい手法を開発しました。

本研究では、海水の動きを過去に遡って追跡し、「いつ・どこで生まれたか」を特定、その後の移動経路に沿った気象条件に基づいて海水の成長量を計算することで海水厚を推定しました。推定結果は現場での実測データとよく一致し、手法の有効性が確認されました。本手法により、既存の海水厚データの精度を大きく向上させ、北極海における日々の海水厚をこれまでになく精度で把握できるようになりました。

また、本研究結果をもとに作成した海水厚データが国立極地研究所のArctic and Antarctic Data archive System（ADS）を通じて公開され、可視化システムVISHOPにより北極海全域の海水厚分布をほぼリアルタイムで閲覧できるようになります。

本研究結果は、2026年4月23日付で欧州地球科学連合（European Geosciences Union）の国際学術誌The Cryosphereに掲載されました。



高知大学医学部・旧高知医科大学開学50周年記念サイトを開設しました。

高知大学医学部は、2028年4月に開学50周年という大きな節目を迎えます。

高知大学医学部は、1976年10月に高知医科大学として設置され、1978年4月第一期生を迎え入れ開学いたしました。1981年4月には医学部附属病院が設置され、1998年4月に看護学科が設置されました。高知医科大学の建学の精神である「敬天愛人」「真理の探究」のもと、これまで5,700名以上の優れた医療人を輩出し、高知県のみならず国内外において数多くの卒業生が活躍しています。

この記念すべき節目にあたり、学生および教職員とともに、「高知大学医学部・旧高知医科大学開学50周年記念事業」を計画しております。この記念事業を通して、これまで50年間支えていただいた卒業生とご家族、関係者さらには地域のみならず心よりの感謝の意を表するとともに、これからの50年間を見据え、未来の高知大学医学部をしっかりと支える次世代の医療育成強化に向けた取組を行います。事業の詳細は、50周年記念サイト及びリーフレットをご確認いただければ幸いです。

今後も高知大学医学部の一層の飛躍を目指して尽力してまいります。

医学部長 井上 啓史

高知大学医学部・旧高知医科大学開学50周年記念サイトはこちらをチェック！

